

Ⅱ オ4回北洋漁場（サケ・マス・底魚）、 に関する水産海洋研究座談会

共催 水産海洋研究会
北洋資源研究協議会

主 題 ブリストル系ベニの豊漁について

日 時 昭和41年2月17日午前10時～午後5時半

場 所 平河町都市センター

コンピーナー 平野敏行（東海区水産研究所）

話題および話題提供者

昭和40年度の漁海況について

海況全般	進 士 福太郎（気象庁）
漁況母船関係	米 盛 保（北海道区水産研究所）
漁況四八関係	中 村 悟（北海道水産試験場）
ブリストル系ベニザケを中心として アラスカン・ストリームとベニザケ漁場	大 谷 清 隆（北海道大学水産学部）
ブリストル系ベニザケの再生産状	花 村 宣 彦（東海区水産研究所）
態底魚研究について	木部崎 修（東海区水産研究所）

1 北洋における漁期の気象と海況（1965）

進 士 福太郎（気象庁）

1) 気象の概況

5月：上旬はベーリング海に高気圧があって、低気圧は50°N以南を通過した。

中・下旬は中緯度を高気圧が通過し、ベーリング海方面は低圧部であったので、低気圧は45°N以北を通過した。

6月：漁場付近が低気圧の経路になっていて、低気圧の活動は著しかった（50°N以北1回、45°～50°N6回）。

7：低気圧が発達した海域は北日本東方海上であったため、漁場付近を通過した低気圧は最盛期を過ぎたもので、穏かな日が多く（15日）霧の日が多かった（低気圧の経路は45°N付近）。

8月：前線帯が50°Nに北上したため、低気圧は50°N以北を通過した。

（各月の時化た水域：5月はオホーック海、6月はオホーック海からベーリング海一帯、7月は北日本の海上から45°N付近まで）。

2) 海況の概況

本会報才2号、才4号、才7号の要領で調査した結果は次の如くである。

(1) 50°N線(160°～175°E)の表面水温と50m層水温

表面水温：5°Cに達した時期は162°～175°Eでは5月下旬後半～6月上旬後半、7°Cに達した時期は160°～165°Eでは7月上旬後半、166°～170°Eでは6月下旬後半であった。

昨年同期との水温差は、5月中旬では166°～168°Eが昨年より高く、6月上旬から中旬にかけては昨年より全般にやや低く、6月下旬からは昨年より高めになり、7月中・下旬には1°～2°C、東に行くほど昨年より高めになっている。

50m層水温：172°E付近は5月下旬前半に4°Cに達したが、7月下旬まで165°E以西は4°C以下であった。7月下旬前半167°E付近は6.5°Cであった。

昨年同期との水温差は、5月下旬頃から昨年より高めになり、170°E付近は7月中旬には2°C高めになっている。

(2) 167°E線(46°～53°N)の表面水温と50m層水温

表面水温：南北が5°Cに達した時期は6月上旬後半頃で、8°Cになったのは7月中旬後半であった。48°N以南の7月下旬の水温は9.5°Cで、6月下旬後半から7月上旬前半にかけて、49°～51°N付近は7.5°C以上の水温であった。

昨年同期との水温差は、6月下旬前半までは1°C以内ではあるが昨年より低く、その後は昨年より1°～2°C高めになっている。

50m層水温：50°N以南と53°N付近では6月上旬前半には4°Cに達したが、51°～52°N付近では6月上旬前半まで4°C以下であった。7月下旬には53°N付近は4°C以下になり、50°N付近では6.5°Cであった。

昨年同期との水温差は、南北とも6月中旬頃までは昨年よりやや高めであったが、6月下旬から51°N以南では昨年よりやや低めとなっている。

(3) まとめ

両線と各層水温分布などの資料を合わせまとめてみると、

表面水温：5月は南風が卓越し昨年より高めに経過しているが、6月は気象の変化が著しく、昨年より低めになっている。しかし、6月下旬から7月にかけては比較的穏であったため、水温も上りやすく昨年より1°～3°C高めになっている。

50m層～75m層水温：昨年より高めに経過している。